

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4472100413		
法人名	社会福祉法人 安岐の郷		
事業所名	さわやかクラブ鈴鳴荘		
所在地	大分県国東市安岐町下山口58番地		
自己評価作成日	平成26年9月10日	評価結果市町村受理日	平成27年2月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年11月21日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

ご利用者になるべくご家族と過ごせる機会をもてるように支援を行っている。スタッフもご家族との信頼関係が築けるように努力を行っている。またご利用者の残された機能を維持できるように、日常動作内でできるリハビリや昔とったきねづかなどをプランに取り入れケアを行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

利用者一人ひとりの人格を尊重し、住み慣れた地域の中で利用者の望む暮らしができるよう支援している。自然豊かな環境の中で、利用者が自由にのびのびと自分らしい生活スタイルが保てるように支援している。職員との関係も密で、利用者は穏やかに過ごせている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念は、毎日の朝礼で唱和している。法人と各部署の理念を各部署ごとに掲示し、面会者の目につくようにしている。	朝礼で理念を唱和している。毎年の目標を職員で話し合い、達成できるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事参加、学校の研修生の受け入れ等を積極的におこなっている。(見立て細工、盆踊り、草刈等)	社協を通じて中学、高校の研修を積極的に受け入れている。法人内の盆踊り等には、希望者と参加するなど交流がある。また、地域行事やゴミ拾いにも参加し、近隣の人とふれあう機会が多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事等の取り組みで認知症の方の理解はできている。人手の必要な時は、連絡するとお手伝いをして頂いている。防災の訓練等も話し合いできている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、1年間の行事予定や意見交換をおこない、意見を頂いている。役員、家族も一緒に行事に参加して頂き、現状を見て頂いている。評価結果も報告している。	一年間の行事予定や意見交換の議事の流れも細かく記録されている。希望の所に連れて行って欲しい等の要望にも実現に向け努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の催し物の連絡を頂き、芸能人の歌謡ショー等に出席している。運営推進会議に市の職員も出席され取り組み、実情を伝えている。	市との連携が密で、市が主催する催し物への案内や支援がなされ、協力関係づくりが積極的に行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開錠時間を毎日ワーカー日誌に記録し、毎月、開錠率を会議で報告している。基本、危険な時以外、ご自由に生活して頂いている。所在確認は、おこなっている。	身体拘束の研修を受け、全体会議で共通認識を図っている。気付きの部分など利用者の声が聞こえてきそうな程丁寧に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待の勉強会に全職員が出席している。職員間の報連相で防止に努めている。(入浴時の身体チェック等)		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や事業所内の勉強会で、学ぶ時間を持っている。必要性のある時は、話し合い支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書により説明はおこなっている。必要な時は、署名、捺印を頂いて納得されたと理解している。利用料金の説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会の方により毎月、ご利用者の意見、要望を聞かれている。又、苦情ボックスも設けている。面会や電話連絡をする際、気軽に話せるような雰囲気を作っている。指摘された場合は、素直に受け入れ反映している。	利用者の方や家族の方から自然に意見や思いが聞けるような雰囲気を作り、出された意見を運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議では、自分の意見、提案をオープンに話せるようにしている。年2回の個人面接でも、率直に意見が言えるようにしている。	年2回の個人面談があるが、日頃からコミュニケーションを取りながら率直な意見が言えるようにしている。自分の意見等を直属のリーダーなどに気軽に話せる雰囲気である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	連休取得でリフレッシュ、子育て支援、ばあちゃん出番です等の休暇の取得をしている。各資格に挑戦し、手当の支給により、各自やりがいや目標が持てるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修(報告書提出)や、外部の講師を呼び(食中毒)研修を受けている。資格のある者は、専門研修に出席している。新人には、業務時間に先輩の職員により指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大分の老施協の研修に出席している。グループワークでの話し合い、意見交換もあり、勉強になっている。市のネットワークづくりに出席し幅広く活動できるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	気持ちの良い挨拶を心がけ、話しやすい場を作る。傾聴することにより、信頼関係を作り、安心して話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様に、傾聴することにより、信頼関係を作り話しやすい場作りに努めている。入居前の説明や施設見学をおこなって不安や要望を聞き入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントする事により、何を、今一番必要としているのかを考える。又、それにより、次の支援も共に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能の低下防止する事により、出来る事のお手伝いをお願いしている。タオルたたみ、お盆拭き、調理等一緒におこなっている。お茶の時間も一緒にお茶を飲み、昔の話や冗談を言う事により、和みの時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ふるさと訪問を支援とし、自宅やその周辺へ外出する事により関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援する事により、地域の行事に参加、地域での買い物等をおこない、地域や人との関係が途切れないように支援している。又、さわやか便りを作り、GHでおこなっている事を分かって頂いている。	地域の行事に参加したり、地域で買い物をしながら関係継続に努めている。「さわやか便り」を家族、地域の方に職員と共に配布している。ふるさと訪問などの機会をできるだけ増やすよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事は、スペースで一緒に食べ、誕生日会やクリスマス会、毎日のお経やラジオ体操等をする事により一人になる時間を少なく、互いに声かけできるような場所づくりをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養併設により、移動された方でも(契約終了)他の利用者と一緒に荘内散歩する事で、会い(面会)に行っている。必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位を一番に考えている。プラン作成時、意向を聞いて、意向に添うようにしている。日常の会話より、希望を察知するようにしているが、困難者は、常日頃の生活や家族によって把握できるように努めている。	日常生活の中で、話が聞こえにくい方への声掛け等、一人ひとりに寄り添い思いに気付くよう心がけている。家族からも生活の様子、情報を聞きながらその人らしく暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントする事で、暮らしの把握ができているが、新しい情報は記録として残し、情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ワーカー日誌や個別記録をする事で一日の過ごし方や、看護師への連絡で心身状態の把握に努めている。出来る事の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態によってその日のケアを提供しているが、会議等により話し合いをし、本人の現状に即した、意向に添った介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングをおこなっている。	介護計画の見直しの部分を赤色で記入し、追加があればさらに書き入れて、カンファレンスに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録にプラン実施記録をしている。日中の様子や夜間の記録に変化のあった事を記録し、会議での話し合いにより、情報を共有し、介護計画の見直しをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急病での受診や帰宅願望等、その時々での対応をおこなっている。又、併設しているところへの面会の希望もあり、部署に確認を取ってからの柔軟なサービスを提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者は、見立て細工等に出品する作品作りをする。地域の行事やお祭りに参加する時は、ボランティアの方々も積極的に協力してくれる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の医師の往診があり、結果は家族に連絡をしている。緊急の受診は、職員が対応する。都度、家族には、了解の確認連絡をする。	医師の往診が月2回あり、専門医への受診は、医師の指示で行われている。緊急の受診で家族が対応できない場合は職員が同行し、家族と連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日に2時間、状態を見に来る。夕方、毎日看護師に日中の状態を連絡し、連携を図る。又、必要であれば指示を仰ぐ。日に2回のバイタルチェックをし記録している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力機関の連携室と連絡を取って、情報交換や相談をしている。定期的に、見舞いを行い、状態を把握し、見舞い時、汚れた衣類を持って帰り、新しい衣類を置く。家族にも、状態の連絡をおこなっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を聞き、話し合いにより(カンファレンスを開催)これからの方針、対応を考え、他職種、担当医との連携を図りながら、できる事の最善を尽くしていく。	本人、家族の意向に沿って対応しており、経過や希望によっては看取りも行うが、法人の他の施設に移る方法を取ることもできる。その人らしい最期を過ごせるよう、最善の方法で支援している。同意書の様式もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	赤十字の救急法の講習会や看護師による緊急時の対応の勉強会に参加し、どこに、何があるか、実践し、急変や事故発生時に備えている。夜間の緊急対応表、緊急時の連絡マニュアルを貼ってある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回、火災訓練や避難訓練をおこなっている。消防署や消防団との合同訓練もおこない、職員による緊急連絡網の実践訓練もおこなっている。避難指示の表示を壁に貼っている。	災害マニュアルがあり、火災訓練、避難訓練を全体で行っている。以前事業所から1kmの場所で避難指示が出た事があり、職員が対応した。消防の方には車椅子対応の訓練をもらった。地域の協力体制もできており備蓄も十分である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で注意をするように心がけている。排尿は星、排便は月で表し、他の人が分からないように配慮している。大きな声で話さないように、個人的な事は、本人の居ないところで話すようにしている。	人格を尊重し、羞恥心を大切にすることを心がけている。プライバシーに関する事は、本人のいないところで話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢のある時は、声かけし本人の意志により決定している。意志決定出来ない方は、本人が喜ぶような選択を職員によりおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、本人のペースで過ごして頂いている。(入浴の時間、食事等)時に、職員の都合で、動いて頂く事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日、自分でお化粧をされる方もいる。基本、洋服は、自分で選ぶようにしているが、選ぶ事の出来ない方は、同じ服にならないように職員が選んでいる。洗顔や整髪が出来ない方は、職員によって温かいタオルやブラッシングをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年2回食事のアンケートを取っている。好き嫌いは把握できている。食事の準備や片づけはおこなってくれる。月1回外食を少人数で出かけている。季節の物を提供するようになっている。	食事は毎日の楽しみとして、旬の食材を使い、咀嚼や嚥下に配慮して、その人に合った形態で提供している。行事食や外食も取り入れ、楽しい食事になるように工夫している。嗜好調査も年2回行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は、個別記録に記載している。栄養士による、カロリー計算もおこなっている。水分を飲まない方は、それに代わる果物やゼリー等で補っている。常に、声かけは、おこなっている。水分制限の方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっている。週1回ポリデントで消毒をし、月1回衛生士による口腔内のチェックがあり、指導を受ける。自分でケアのできない方は、職員がおこなっている。できる方にも、声かけはしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の下着とパットの必要な方は、個々に合ったパットを使用している。残存機能を活用し、トイレでの排尿を促している。おむつ使用者は、いない。夜間は、定期的なパット交換をおこなっている方はいる。	おむつ利用者はなく、排泄チェックしながら個々のリズムを大切に支援している。排便に関しても下剤に頼らず食事を工夫し、スムーズに行えるようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご飯は、玄米と白米のブレンドを提供している。野菜や食物繊維の多い食事に努めている。水分の声かけ、朝のラジオ体操、散歩に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日入浴をおこなっている。本人の希望の時間を聞いて入浴している。個々に合わせて、ゆっくりと時間をかけて入られる方もいる。	希望があれば毎日入浴できる。長風呂で1時間ほどゆっくり入る方もいる。介助は同性で行うなど配慮し、全員に声掛けして希望を聞いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は、一人ひとり違いゆっくり寛いだ時間を過ごされている。夜間眠れない方は、日中は、居室のベット、畳の上やソファで休息されている。室温や寝具の調整をおこない、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬と処方箋により確認をおこなっている。本人と薬に書いている名前を本人に確認してもらい、飲み込むまでの確認をおこなっている。変更のあった場合は、記録して情報の共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	庭の手入れ、手芸、読書等、楽しむ事で気分転換をしている。廊下にミニ図書館を作っている。お経も、リーダーとなって積極的に、唱和されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	観劇、買い物、外食、同じ事業所内の部署と共に遠出(足湯、ドライブ)をしている。家族と外出する方や、夫婦一緒に自宅に帰れる方もいる。	買い物、外食など利用者の希望に添って外出支援をしている。月に1度帰宅される方もおり、正月に外泊希望される方など利用者の思いをくむ対応をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の洋服やお菓子等を買われる方がいる。ほとんどの方は、金銭管理できない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スタッフの取り次ぎで、電話したり、家族から電話がかかってくる。携帯電話を持たれている方がいて、自分でかけている。手紙は、孫から定期的にはがきが届き、代筆で返事を書いている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や自分達が作った作品を飾っている。生花教室に参加し、自分の生けた花を居室や玄関に飾ってる方もいる。ホーム内が暗くないように、廊下や玄関は常に、電気を点けている。冷暖房や窓を開ける事により、室温の調整をおこなっている。電気が切れたら、すぐに交換する。	室内はきれいに整頓され、室温や換気に気を配っている。感染症予防のため、毎日、共用空間と各居室にナノバブルを使用して除菌するなど、安心して過ごせる環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下、スペース、庭等に椅子を置いていつでも座れるようにしている。スペースでは、自分の座る場所が決まっており、その位置が一番安心される。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人が、使いやすいように配置している。(タンス、ソファ、テレビ、机、椅子等)庭で摘んだ花や、写真等飾ってあり、自分が過ごしやすいように空間を作っている。	一日の流れとして、起床や就寝が自由なので、各自、自分のペースで過ごせている。利用者が食堂で朝食をとっている間に、早出勤者が居室を毎日清掃し、気持ちの良い清潔な部屋で過ごせている。湯たんぽ利用の方もあり、個々の希望に対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	設備担当職員によって、トイレの看板や棚を作っており、テーブルは、本人に合った高さにして、調整をしている。残存機能を生かし、自立支援に心がけている。		